

# 村上・岩船地区大会

8月17日(土)、教育情報センターで新潟県少年の主張大会が開催されました。

発表者は、約150人の観覧者を前に大きな声でハッキリと自分の想いを発表しました。

この大会で最優秀賞に選ばれた鈴木理南さん(中等教育学校3年)の発表内容と市内の各学校の代表者を紹介します。

なお、最優秀賞の鈴木さんは、9月23日(月・祝)に開催された県大会に地区代表として出場しました。

## ●問い合わせ

村上地域振興局健康福祉部(村上保健所)

☎53-8361

## 最優秀賞

鈴木<sup>すずき</sup> 理南<sup>りな</sup>さん  
＝中等教育学校3年＝



「互いに思い合うこと」

皆さんは人の前に立ったことがあるでしょうか。集団で何か活動するときに番目立つのはやはり全員の前には「リーダー」でしよ

う。私は「リーダー」と聞くとみんなの主役、誰よりなくてはならない存在、というイメージが強くありました。しかし、私が受けた道徳の授業で「二人」だけでは前に立つことができないということを知りました。  
集団生活の中では、主役はリーダー、脇役はその周りの人、サポーターとなります。「リーダー」は主に全体をまとめ、物事を進めていく人を指すでしょう。「サポーター」はリーダーのサポートが大きな役目です。リーダーに比べればサポーターの仕事は小さなものかもしれませんが、しかし、これがなかつたらどうなるのでしょうか。合唱に置き換えて考えてみましょう。

合唱でいえばリーダーは指揮者、サポーターは伴奏者や歌う人たちです。これらが集まればすばらしいハーモニーを奏でることができるとでしょう。しかし、指揮者だけではそれはかないません。それどころか音を出すことさえできないでしょう。そうすると、伴奏者や歌う人たちの存在が必要不可欠であることがわかります。

道徳の授業で、私は「寅さんシリーズ」の監督である山田洋次さんの書いた「脇役の魅力」という文章を読みました。その中には「脇役がいてこそ主役が輝く」とあります。映画の中で、周りには脇役が技術的に高い芝居をするところによって、主役の存在感を浮き立たせるのだそうです。これは私たちの集団生活の中でも同じことが言えるでしょう。すると「サポーターがいてこそリーダーが輝く」となります。しかし、これではリーダーよりもサポーターばかりが重要なように聞こえてきます。本当にそうなのでしょうか。

図をしなければならぬ曲自体が始まらないでしょう。必要不可欠な点では指揮者も同じなのです。  
そして、合唱の「サポーター」の中にもテノール、アルト、ソプラノなど、沢山の役割があります。もし、どれか一つでも欠けてしまったらどうなるのでしょうか。ただそれだけでその合唱が何かが物足りないものになってしまいます。だから、サポーターは大勢いても、誰一人欠けることがあってはならないのです。  
すなわち、指揮者、伴奏者、全ての歌う人たちが集まって初めてすばらしいハーモニーを奏でることができるとです。集団の中で誰か一人だけが重要ということではなく、リーダーもサポーターも、また、サポーターの中の誰か一人でも、欠けてはならない大切な存在なのです。

これは、私たちの社会に広くあてはまることではないでしょうか。例えば先日行われた参議院議員選挙では投票率が低く、その背景には若者の政治への無関心が指摘されています。しかし、これには若者が政治に触れ、考える場を作ることがなかつたリーダー、ここでは先輩の方や政治家の側にも責任があるのではないのでしょうか。たとえば、政治家の話を聞いた

議論したりするなど政治が実感できる場を、小学生のときから経験できるようにしてほしいと思います。その時「万通行ではなく、お互いの立場や思いを伝えあい理解できれば、その積み重ねで将来若者の政治への関心が育っていくはず。もちろん、若者も自分の責任を感じずリーダーに頼っているばかりではいけません。自身がこれから生きていく社会や、政治に携わる人に関心を持ち、行動してゆく真摯な姿勢が求められます。そのように、リーダーとサポーターがお互いの存在を見つめ尊重し合うことができたとき、はじめて本当のよりよい社会を築いていくのではないのでしょうか。  
どちらか片方が相手を想っているだけではまとまることはできません。もつその時点でお互いの共感が聞かされてしまうからです。だから、どのような立場であれ全員が「誰もが不可欠の大切な存在」であることを頭に置き、お互いに思い合いながら活動することが大切です。全員で共感することから誰もが参加する環境ができていくのです。そうすれば、きっと私たちの社会から今まで以上にすばらしいハーモニーが聞こえてくるでしょう。

## 奨励賞



すがい ななみ  
須貝 七海 さん

=岩船中学校3年=

「家族に支えられて」

私は今、家族のことで悩んでいます。修学旅行先のお寺で座禅体験をしたとき、住職のお話を聞いて家族のありがたさやかけがえのなさを強く感じました。



とやま ななこ  
遠山 菜々子 さん

=荒川中学校3年=

「いじめについて」

自分の体験した「いじめ」をもとにして、なぜいじめはおこるのか、いじめはとてもしけないことだということを伝えようと思いました。



とがし  
富樫 あゆみ さん

=村上第一中学校3年=

「あなたはあなたのままで…。」

自分の体験やいじめについての話から、あなたはあなたのままでいいということを伝えようと思いました。



ますだ みずき  
増田 泉輝 さん

=神納中学校3年=

「夢という存在」

僕は走ることが好きで、駅伝を始めました。それがきっかけで駅伝のすばらしさや、「たすき」がもつ意味を考えてみました。

## 優秀賞



のざわ みゆき  
野澤 美優紀 さん

=平林中学校3年=

「先生は『敵』ですか、

『味方』ですか」

毎日学校で顔を合わせる先生たちは、私たちのことを大切に想っていること、私たちにとっても大切な存在であることに気付いて欲しいと思います。



かとう なつみ  
加藤 夏葵 さん

=山北中学校1年=

「学校の部活」

私の学校にはバドミントン部がありません。その中で練習し、大会に臨み、成績を残すことで周囲に認められたいです。バドミントンだけでなく何事にも積極的に取り組みたいと思います。



おだ ひろの  
小田 寛乃 さん

=村上東中学校3年=

「原子力に頼らない」

原子力に頼らず生活していくために、私たちが今できることは何かを考えました。



やまが えみこ  
山賀 恵実子 さん

=朝日中学校3年=

「ドラえもんが教えてくれたこと」

漫画が自分を変えてくれた体験をもとに、漫画や活字の本に関わらず、多くの作品にふれることが私たちの成長に欠かせないものではないのかと思いました。

◎岩船郡の代表では、渡邊健斗さん(関川中学校3年)が優秀賞を、脇川杏菜さん(栗島浦中学校3年)が奨励賞を受賞しました。